

# 大谷教師塾 教員養成ナビゲーター

大谷大学  
教職支援センター

第125号  
2020. 1. 25

## 「大学推薦」について

大谷大学 教職支援センター長 教育学部 教育学科教授 関口敏美

今夏、教員採用試験を受験する人には残り時間が半年を切りました。今回は、教員採用試験の「大学推薦」について考えてみます。

高校や大学の推薦入試制度に比べると、社会的な認知度はそれほど高くはないようです。インターネットで「大学推薦」を検索すると、教育委員会のHP、大学のHPのほか、Yahoo知恵袋のQ&Aも上位にあがってきます。

文部科学省の調査によれば、教員採用試験を実施している教育委員会がすべて「大学推薦」枠を設けているわけではなく、枠を設けていないところもあります。

「Yahoo知恵袋」で、どのような質問や回答のやりとりがあるのか興味をひかれ閲覧すると、「大学推薦」に関しては、質問に対する回答数も少なく、かなり限られた範囲内で関心をもたれているように感じました。

例えば、「大学推薦と地元で両方合格したが大学推薦を辞退できるか」という質問に対してベストな回答例は、「大学推薦を辞退すると大学と後輩に迷惑がかかるから辞退すべきではない」というものでした。

これは比較的まともな回答だと思いますが、基本的に匿名の回答なので、時には「後輩のことは考える必要なし」という無責任な回答もあります。大学推薦を辞退すべきか否かという問題を相談する場としては不適切です。

また、教員採用試験に関する情報サイトでは「大学推薦では筆記試験が免除されるので実技が得意な者に有利」だとか、「実技が苦手な者には一般試験の方が有利」などと説明しているものがありました。

これは微妙な情報で「実技が得意かどうか」だけで合否が決まるわけではありません。このような不確かな情報に惑わされず、自分で各教育委員会のHPを調べるか大学の教職支援センターで質問する方がよほど安全です。

例年、京都市・京都府・滋賀県・大阪市・大阪府・豊能地区・千葉県・神奈川県・横浜市等から大学推薦の募集要項が届きます。

“筆記試験免除”が魅力的に映るのか、本学でもここ数年は大学推薦希望者が増えています。

大学推薦の募集人数や出願資格、具体的な選考過程については、各教育委員会によって異なりますので、関心のある人は教育委員会のHPで確認してください。

大学推薦は、筆記試験が免除（一部免除もあり）で面接試験・実技試験から始まる場合が多いようです。筆記試験の代わりに小論文が課されることもあります。昨年度、新設された大阪市(小学校)では、書類選考後、筆答試験・実技試験・面接試験があり、必ずしも「一般試験より負担が少なくて楽」というわけではありません。

一般試験の場合は、筆記試験の準備が不可欠ですが、一次試験に合格すると翌年は一次試験免除で二次試験から受験できるところが多く、次年度に教員採用試験を受験する場合には、この制度はたいへん有利です。

ところが大学推薦には、このような優遇措置はなく、必ず合格できるわけでもありません。不合格の場合、翌年は筆記試験の準備をして一次試験から受験しなければなりません。

それを考えると、一見魅力的な大学推薦にも一長一短があるといえます。「急がば回れ」というように、地道に筆記試験の準備をして教員採用試験に臨んだ方が、あとあと負担が軽くなって「ラッキー」かもしれません。



# 《こんな先生になります》

( ) 採用内定自治体

《子どもと共に学び続ける先生に》

教育・心理学科 楠 彩華 (大阪府・小学校)



教育実習で子どもたちに教える私が、逆に教えられることや気付かされることが本当にたくさんあった。教材研究や子どもとの関わりを進める中で、教育の技術や幅広い知識、児童理解の必要性を痛感した。目の前にいる子どもたちに、「どのように伝えたらよいのか」「これでよいのだろうか」と自問自答しながら、少しずつ自分の教育観が見えてきたように感じている。今後も、「子どもと共に学び続ける教師」として努力する。

《子どもの可能性を広げられる先生に》

教育・心理学科 松岡 美帆 (滋賀県・小学校)



私は、学校ボランティアや教育実習の経験から、「子どもは、無限の力を持っている」と感じている。そして、その力を最大限に伸ばすのが教師の仕事だと思う。そのために、教師は子どもの個性を把握し、声掛け等の働きかけの工夫が必要だと思っている。そして、うまくできても、できなくても、頑張れたことを一緒に喜びたい。私自身も何事にも挑戦し自分の可能性を広げていこうと考えている。経験の少なさからの不安もあるが、子どもの可能性を広げられる教師を目指す。

《子どもの笑顔を引き出せる先生に》

教育・心理学科 藤 きよら (京都市・総合支援学校)



私が総合支援教育を目指したのは、総合支援学校のボランティアをしたことがきっかけだった。子どもたちは、それぞれに障がいがあることに捉われずに笑顔で楽しそうに活動していた。その笑顔を引き出しているのは、奮闘している先生だった。このときから、この教育に携わっていきたく強く思った。

子どもの「できる」ことに目を向け、「ほめる」ことを大切にして関わってきたい。そして、子どもの笑顔を最大限に引き出せる先生になる。

《子どものやる気を起こさせる先生に》

教育・心理学科 三原 克輝 (神奈川県・小学校)



子どもたちは、いろいろな事に挑戦し成功や失敗を重ねながら成長していく。そのために私自身が挑戦していく姿を子どもたちに見せたい。そして、子どもたちの行動に大きな支援をおくりたい。そのことが、生き生きと活動できる学級づくりにつながると考える。

子どもが「学校に行きたい」「〇〇がやりたい」と思えるような学級づくりをする。困りごとがあれば、「なにくそ精神」で子どもと共に考え、共に乗り越えていく。そのことを大切にして、子どもの「やる気」を起こさせたい。

## 《子どもの発想を大切に先生に》

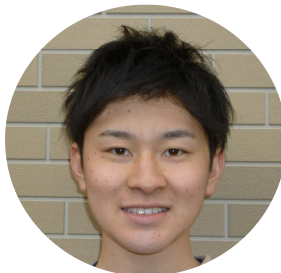
教育・心理学科 藪内 大雅（京都市・小学校）



学校ボランティアや教育実習を通して、多くの子どもたちと関わってきた。その中で、子どもの心の中にある一人一人の思いや考えは、とても大切だと感じてきた。子どもがお互いに認め合える学級づくりを目指すとき、教師は子どもの目線に立って考え接する必要がある。それが、子どもの思いをくみ取れることに繋がっていく。私は、この初心を忘れることなく学び続けたい。子どもの発想を大切にできる最高の先生になる。

## 《子どもと関わる時間を大切に先生に》

教育・心理学科 重信 雅哉（川崎市・小学校）



教師の仕事は、「とても忙しい」と感じている。同時に、子どもと共に成長できる「とてもやりがいがある」とも考えている。私は、子どもと共に過ごす時間を大切にしながら信頼関係を築き、子どもが「学校は楽しい」と思えるように取り組みたい。日々、子どもから学び、時には心の支援に悩み、時には子どもと共に楽しむ活動にも努力したい。一日一日を大切にしながら、教師として過ごしたい。

## 《生徒と共に成長し続けられる先生に》

文学科 高見 怜奈（横浜市・中高校 - 国語）



「教師は、生徒に勉強を教える仕事」と軽く考えていた私は、教育実習で自分の力のなさを痛感させられた。「生徒からの質問に四苦八苦」し、「発問や説明は正確に伝わらず」、「私の思いは生徒の心に届かない」等、多くを気付かされた。それからの私は、「解かる授業」への改善に向けて努力した。すると生徒から「解りやすい」「解るようになった」との声が聴けるようになってきた。嬉しかったと同時に、教師として学ぶことの大切さを知ることができた。生徒の成長と共に、私自身も成長していく先生になる。

## 《子どもの良さを引き出せる先生に》

教育・心理学科 橋本 孝介（滋賀県・小学校）



私は、教育実習や学校ボランティアでの経験から「ほめる」ことの大切さを学んだ。私たちも褒められると嬉しい気持ちになる。同じように、子どもたちも褒められて意欲を持って行動し、自信を持つ。そして、自分の良さも認識していくと考える。

私は、「ほめる」ことを中心にしながら子どもと関わり、子どもたちが相互の良さを分かり合える人になってほしいと考えている。

## 《子どもたちの心と向き合える先生に》

教育・心理学科 門馬 永知（京都市・小学校）



私は、子どもたちが毎日を安心して楽しく活動できる学級をつくりたい。何事も、子ども同士で話し合ったり、支え合ったりしながら作り上げていく活動を大切にしたい。その活動を重ねていくことで、お互いを認め合うこともできるようになると考える。学級の中に「信頼関係」が芽生えると、安心して行動でき、活発に活動できると信じている。

私は、初心を忘れず子どもたちの心に常に向き合って「最高」の先生になる。

《子どもの思いを大切にできる先生に》 教育・心理学科 細見 隆明 (滋賀県・小学校)



私は、子どもたちと関わる時、どんな願いを持ち、何を目指しているかを常に考えて接していきたい。教育実習で、教師が示す教材によって子どもたちの興味の集中度がちがうことを知った。教師の工夫によって、子どもたちは無我夢中になり、意欲的に学習に取り組んでいくことを学んだ。私は、一人一人の子どもを理解して関わり、支援していくことが子どもの成長につながると感じた。そのためにも、子どもの思いを大切にしていきたい。

《子どもに寄り添うことのできる先生に》 教育・心理学科 井澤 鼓 (富山県・小学校)



子どもにとって教室は、安心できる場所である。そこには、すべてを受け入れてくれる先生とお互いに理解し合う友達がいる。その環境の中で教育活動が進んでいく。私は、子どもの小さな変化にも気付き、いちばん近くで見守ることのできる先生になる。褒めたり、叱ったり、時にはそっと子どもの背中を押したり、そんな存在の教師でありたい。

これからの教師生活には不安もあるが、笑顔を忘れずに子どもたちと共に日々成長し、学び続ける努力をしていく。

《子どもの喜怒哀楽に共感できる先生に》 教育・心理学科 金澤 拓海 (京都市・小学校)



子どもたちの毎日の学校生活には、成し遂げた喜びや思いがけない悲しみ、周りに受け入れられている安心感や抑えきれない不安感が入り混じる。教師は、そんな子どもたちの心に寄り添い、それぞれの思いを共有する。

私は、子どもたちの更なる成長を目指して、共に歩み、共に感じ、共に学んでいきたい。そのためには、子どもたちとの関わりを大切にしながら、その様子を観察し、思いを感じていく努力を続けていきたい。

《子どもたちの発言を大切にできる先生に》 教育・心理学科 高田 英雄 (愛媛県・小学校)



子どもにとっての教室は、友達と関わり、新しい知識と出会い、自分の考えを持つ等の学びの場である。私は、この学びの場に子どもたちの発言を自由にできる環境をつくりたい。自分の思いを受け入れられ、安心して発言できる環境は、子どもたちの活動に意欲と集中力を与える。私は、どんな活動の場であっても、子どもたちの積極的な発言を大切にできる学級をつくっていく。

《子どもの良さを見つけられる先生に》 教育・心理学科 中嶋 志穂菜 (千葉県・小学校)



教育実習で、「ほめる」ことの大切さを学んだ。お互いの良さを見つける場を設定し、みんなで認めていこうとする活動である。そこでの教師は、日頃から子どもと関わる中で会話を大切にしながら児童理解を深めておくことが必要と考えている。そして、信頼関係を築いていきたい。一人一人の「良さ」を認め合うことによって、お互いに心が繋っていくと思う。そのことから、居心地の良い楽しい学級づくりができると考えている。

## 《子どもの成長を喜べる先生に》

教育・心理学科 福嶋 香七絵 (石川県・小学校)



教育実習や学校ボランティアで子どもの成長する場面をたくさん見ることができた。その成長は、保護者にとっても教師にとっても嬉しいことだ。

子どもの成長を目指して、私は、その子の良さを見つけて褒めたり頑張りを認めたり、粘り強く働きかけようと考えている。その子にとって、どのように声かけをしたらよいかを悩みながら、周りの先生方に相談しながら支援をしていきたい。そして、子どもの成長に出会えた時、子ども・保護者と共に喜び合える先生になる。

## 《子どもの得意を伸ばせる先生に》

教育・心理学科 一岡 凌輔 (京都市・小学校)



子どもの良いところは、「自分の好きなこと」や「やりたいこと」には真っすぐに行動していくところだ。自分の得意なことをしている時の子どもたちは、とても輝いている。この得意を伸ばすことによって、充実した未来へつなげることができれば嬉しい。

私は、関わる一人一人の子どもたちの良いところを見つけ、伸ばすことができるように精いっぱい支援したい。そして、子どもたちの成長につなげたい。

## 《子どもの気持ちを大切にできる先生に》

教育・心理学科 吉村 涼 (草津市・幼稚園)



子どもは、成功や失敗の経験を通して成長していく。これは、私の教育実習や学生ボランティアの経験から学んだ。園生活の様子から「子どもが、時々感じること・学ぶことは、子どもの成長にとって大切なことである」と改めて思った。そこから挑戦していく行動が、さらに子どもたちを成長させる。教師は、子どもたちの試行錯誤を支援し、挑戦できる環境をつくる。私は、子どもの気持ちを常に大切にできる教師になる。

## 《生徒の立場になって考えられる先生に》

文学科 益子 祐人 (静岡県・中学校 - 国語)



私は、中学生の頃から教師を目指してきた。大学生になって、学校ボランティアや教育実習を経験してその思いがより強くなった。教師は、生徒との信頼関係を築くことが大切になる。そのためには、生徒が「今、何に困り、何を悩んでいるのか」を生徒の目線で感じ共に考えたい。その積み重ねが、信頼関係を築いていくことに繋がる。

私は、どんな場面でも「生徒の立場に立って考えられる」教師を目指す。

## 《子どもの可能性を大切にできる先生に》

教育・心理学科 溝口 留菜 (京都市・総合支援学校)



私は、障がいのある子どもたち一人一人の可能性を大切にできる教師になる。子どもたちのできることは、それぞれ違う。一人一人のできることを知って、良いところを褒めて働きかける教育を進めたい。成長速度が違う子どもたちの気持ちを大切にしながら活動を見守り支援することを教育実習で学んだ。子どもの可能性を引き出し、「できた」喜びを子どもと共に喜び合える教師になる。

《子どもの「楽しい」を創りだせる先生に》 教育・心理学科 麓 龍証 (滋賀県・小学校)



私は、一人一人の子どもを大切にしたい40通りの一対一の丁寧な関わりを持つようと考えている。そして、それぞれの子どもが「楽しい」と感じられる学級を創る。私は、目の前の子どもたちをしっかりと見つめながら「何を伝え」「どのように授業を展開し」「意欲の出る活動に向けて、どう働きかけるか」を日々考え行動できる教師を目指したい。私自身が、時代の変化に柔軟に対応しながら教師を「楽しみ」、子どもたちの「楽しい」を目指す。

《子どもの居場所をつくれる先生に》

教育・心理学科 前里 真利佳 (沖縄県・小学校)



私は、教育実習や学校ボランティアで「子ども一人一人と丁寧に接していくことで信頼関係を築いていける」ことを学んだ。子どもたちは、安心できる環境の中でこそ活発に発言し合い、積極的に行動できる。私は、子どもたちのすべてを受け止め、素直に自分のことを表現できるような学級をつくる。そして、子どもたちが「毎日の学校が楽しい」と思えるように、私自身が精一杯に努力を重ね成長していきたい。

## 教職をめざす皆さんへ

教職支援センター アドバイザーから

### 4年生の皆さん

卒業を控え、これからの夢を大きく膨らませて歩き出そうとしています。4月から新採教師や講師として教職に進む人、企業や専門職に進む人など様々ですが、希望と不安の入り混じるこれからの道を一歩一歩力強く歩いてほしいと願います。まずは、この4月からの行動すべきことを計画しながらイメージを持って進み始めてください。

### 3年生の皆さん

教員採用試験に向けて学習を重ねている3年生の皆さんにもメールを送ります。「7月までの半年をどう過ごしていくか」が、大きなポイントです。自分の教育観を明確にさせながら、筆記対策と並行して表現対策も積み重ねていきましょう。教師としての専門性を高める課題と、自らの人間性を育む自分づくりの課題を視野に入れ計画し、力を積み上げていってください。支援センターのアドバイザーは、あなたの夢の実現を願っています。教採に向けての支援を惜しみません。是非、訪ねてください。

## 教職支援センター 今後の予定

志願書記入説明会 14:40~16:10 (いずれか一日)

地域別、事前申し込み不要 - 3年生対象 -

3月	4日(水)	滋賀県
3月	5日(木)	大阪地区全域
3月	6日(金)	京都府・市
3月	9日(月)	上記以外の都道府県自治体

- ・志願書の内容について
- ・志願書の記入について



セミナー・勉強会等への積極的な参加を呼びかけます。  
論作文を多く書いて、表現力をつけよう。(要添削)